

米国 ガソリン販売の減少により小売売上高は減速 (07年8月小売売上高)

発表日：2007年9月14日(金)

～基調はしっかり～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : sei-ji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

- 8月の小売・飲食サービス売上高は前月比+0.3%と市場予想の同+0.5%を下回ったが、6、7月合計で0.1%上方改定されており実態は概ね市場予想通り。一方、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高はガソリンの大幅な減少等によって前月比▲0.4%（前月同+0.7%）と市場予想の同+0.2%に反し減少した（6、7月合計で0.3%ポイント上方改定）。他方、全体からガソリンを除いた小売・飲食サービス売上高は前月比+0.6%（前月同+0.6%）と2ヵ月連続で高い伸びとなった（6、7月合計で0.2%ポイント上方改定）。
- 変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は+5.1%（前月+8.8%）と減速した。ただし、この数字はガソリン販売が価格変動の影響を受けており、このような影響を除いた「自動車・ガソリン販売を除く小売・飲食サービス売上高」は8月に+5.5%（同+7.2%）と減速したが高い伸びを維持している。金融市場の混乱が拡大したなかで、良好な所得環境、株式資産残高の増加を背景に、消費は堅調さを維持していると判断される。
- GDPベースの個人消費算出に使われる小売・飲食サービス売上高（除く自動車・ガソリン・建材）は、8月に前月比+0.1%（前月同+0.8%）と減速したが、7月が上方改定され高い伸びとなった後にもかかわらず増加基調を維持した。さらに、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では+6.1%（前月+6.7%）と高い伸びを維持しており、7～9月期の実質個人消費は前期比年率+2.3%と4～6月期の同+1.4%から加速すると予想される。
- 市場予想を下回る内容だったことを受け、主要株価先物、債券利回りは低下しドルは売られた。

小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

	小売・飲食サービス売上高		耐久財関連 (*1)				非耐久財関連 (*2)			
		除く車		自動車	家具	家電		衣料品	ガソリン	
06/11	+0.3	(+4.5)	+0.5	+0.1	▲0.1	+0.1	+3.4	+0.6	▲0.7	+3.2
06/12	+1.1	(+5.6)	+1.1	+0.9	+1.1	▲0.1	+1.3	+1.0	+1.1	+3.7
07/01	▲0.0	(+2.2)	+0.2	▲0.4	▲0.8	+2.0	▲1.6	+0.4	+2.8	▲0.0
07/02	+0.6	(+3.6)	+0.5	+0.4	+0.8	▲0.1	+0.4	+0.9	▲1.7	+1.6
07/03	+1.0	(+4.4)	+1.1	+0.7	+0.6	+0.0	▲1.0	+1.0	+2.0	+3.1
07/04	▲0.3	(+2.8)	▲0.1	▲1.3	▲1.3	▲0.6	▲0.2	+0.2	▲1.7	+1.2
07/05	+1.6	(+5.1)	+1.7	+2.0	+1.2	+0.7	+1.1	+1.6	+2.7	+4.6
07/06	▲0.8	(+4.0)	▲0.2	▲2.5	▲2.9	▲1.6	▲1.0	+0.0	▲1.2	▲1.9
07/07	+0.5	(+3.6)	+0.7	+0.2	▲0.3	+1.8	+1.1	+0.6	+1.6	▲0.4
07/08	+0.3	(+3.7)	▲0.4	+1.5	+2.8	+0.5	+0.4	▲0.4	▲0.1	▲2.4

(出所) 商務省 (Department of Commerce)

(注) 数字は季調済前月比。但し、() 内は前年同月比 (未季調)。

*1: 耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上の合計。

*2: 非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

自動車を除く小売売上高は前月比▲0.4%と失速

07年8月の小売・飲食サービス売上高は、前月比+0.3%と前月の同+0.5%から減速した。市場予想の同+0.5%を下回ったが、6、7月合計で0.1%上方改定されており実態は概ね市場予想通り。

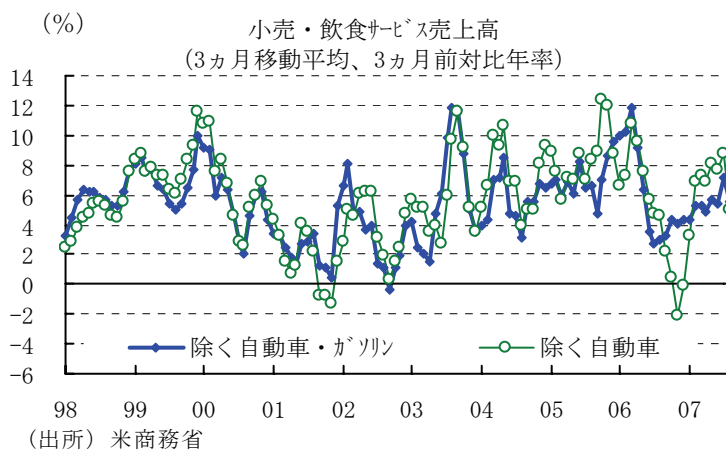
項目別にみると、耐久財では家具、家電の拡大ペースが鈍化したものの、自動車が増加に転じたため、耐久財全体は増加した。非耐久財では価格の下落によりガソリン販売の下落ペースが大幅に拡大した。通信販売、建設資材、気温の上昇で秋物衣料が不振だった衣料品販売が減少に転じた。さらに、飲食店売上、一般小売、スポーツ用品・書籍が減速したため、非耐久財全体は減少した。

変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高はガソリン、建設資材、衣料品、通信販売の減少によって前月比▲0.4%（前月同+0.7%）と市場予想の同+0.2%に反し減少した（6、7月合計で0.3%ポイント上方改定）。他方、全体からガソリンを除いた小売・飲食サービス売上高は前月比+0.6%（前月同+0.6%）と2ヵ月連続で高い伸びとなった（6、7月合計で0.2%ポイント上方改定）。

以上のように、8月の小売売上高（除くガソリン）は、金融市場の混乱が拡大したが良好な所得環境、企業の値下げ販売、株価の上昇等を背景に堅調さを維持した。

小売売上高は堅調さを維持

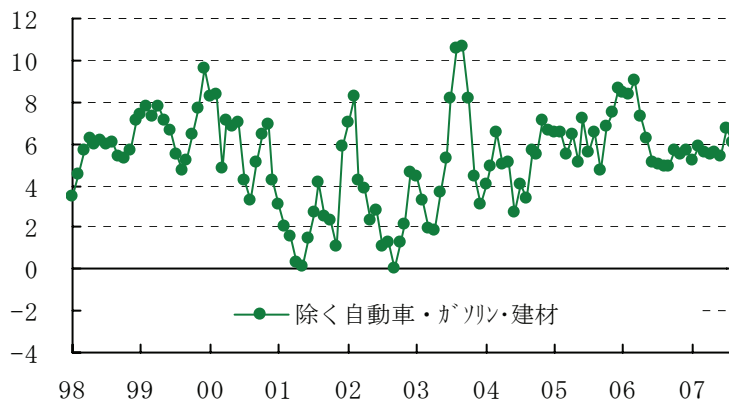
月次での変動を均すため3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で消費のモメンタムをみると、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は+5.1%（前月+8.8%）と減速した。ただし、この数字はガソリン価格変動の影響を受けている。このようなガソリン価格変動の影響を除いた自動車・ガソリン販売を除く小売・飲食サービス売上高は8月に+5.5%（同+7.2%）と減速したが高い伸びを維持している。金融市場の混乱が拡大したなかで、良好な所得環境、株式資産残高の増加を背景に、消費は堅調さを維持していると判断される。



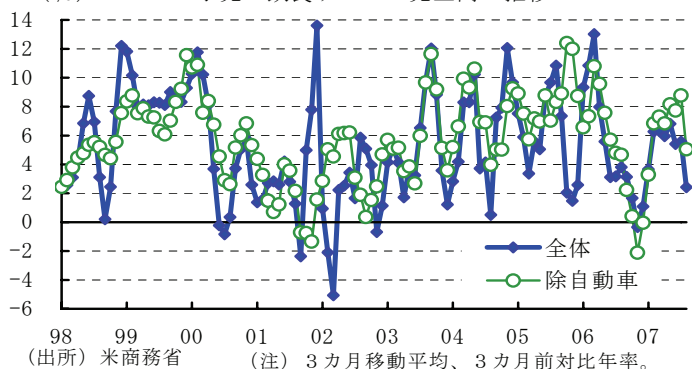
小売・飲食サービス売上高（除く自動車・ガソリン・建材）は、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で+6.1%（前月+6.7%）と高い伸び

GDPベースの個人消費算出に使われる小売・飲食サービス売上高（除く自動車・ガソリン・建材）は、8月に前月比+0.1%（前月同+0.8%：速報同+0.6%から上方改定）と減速した。しかし、7月が上方改定され高い伸びとなった後にもかかわらず増加基調を維持した。さらに、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では7月が上方改定されたこともあり+6.1%（前月+6.7%）と高い伸びを維持した。7～9月期の実質個人消費は前期比年率+2.3%と4～6月期の同+1.4%から加速すると予想される。

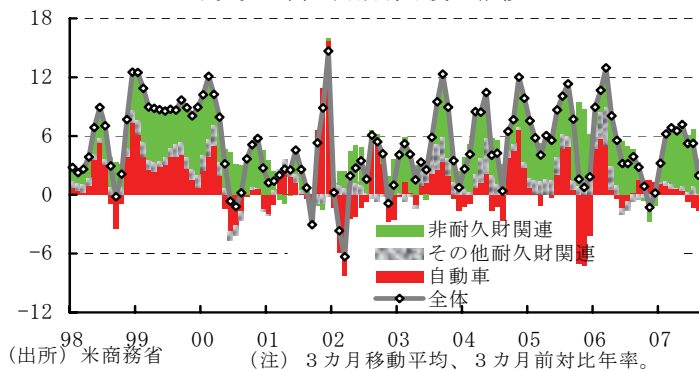
(%) 小売・飲食サービス売上高
(3カ月移動平均、3カ月前対比年率)



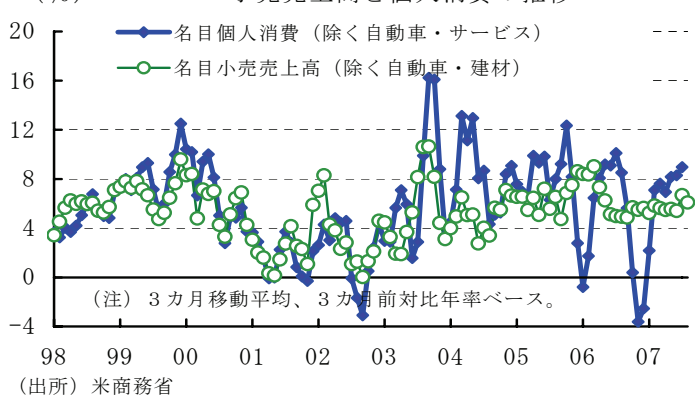
(%) 小売・飲食サービス売上高の推移



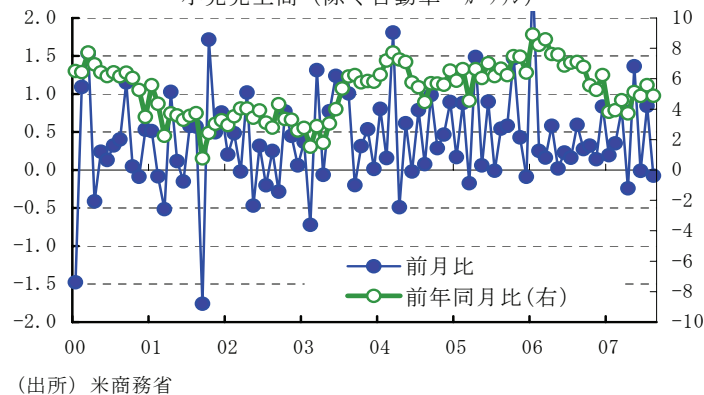
(%) 小売売上高の財別寄与度の推移



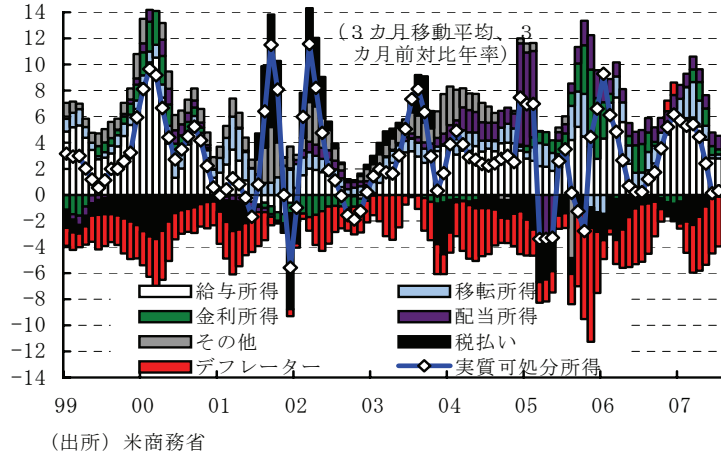
(%) 小売売上高と個人消費の推移



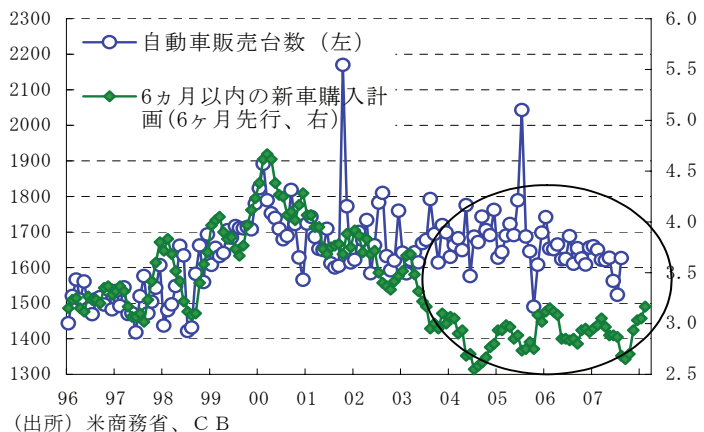
(%) 小売売上高 (除く自動車・ガソリン)



(%) 実質可処分所得の内訳別寄与度の動向



(万台) 自動車販売台数 (季節調整済み年率)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。